

# はじめに

私たちの暮らす地域では、お互いさまの意識や文化、関係性が培われており、それを基にした「地域の宝物」と呼ぶべき様々な支え合い活動が展開されています。

また、住民だけでなく、共に地域を構成する関係機関などの様々な主体が参画し、連携した支え合い活動が多種多様に存在し、地域ならではの魅力となっています。

一方で、高齢化に伴い、支援が必要となる人が増加する中で、人口減少やライフスタイルの変化などにより、地域活動の担い手が十分確保できないといった課題が出てきています。

地域の実情に応じた支え合い活動が重要になる中で、「どのように地域の声を拾い上げたらよいか」「どのような工夫や連携ができるのか」などといった、活動始めるきっかけや立ち上げ方がわからず、一歩が踏み出しにくいという声も聞かれます。

「だれもが住み慣れた地域でこれからも安心して暮らし続けたい」という『地域の夢』の実現に向けて、「こんなことができたらいいな」「こんな仕組みがあるといいな」という人々の思いが集うことや、地域愛を高めていくことが必要になります。

本誌『この夢と～まれ』では、地域の願いや希望により、立ち上がった様々な支え合い活動の手順や工夫、そしてそれを応援する情報について紹介しています。

この一冊が、地域の夢を形にしていく、元気な地域づくりの参考になれば幸いです。

## 「暮らし」にたくさんの「き」がつく支え合いの「くらしき」へ

支え合い活動が広がる過程では、地域にあるたくさんの「き」が折り重なることで、暮らしに**気**づかいや**寄**り添いが生まれ、仕組みづくりの**企**画や活動が動き出す**機**会にもつながっていきます。「暮らし」にたくさんの「き」がつくことで、そこで暮らす人々の**喜**びや**希**望となる、暮らしが**輝**く「くらしき」（暮らし輝）となっていきます。

今回ご紹介する事例も、このような様々な「き」が集まることで生まれ、「地域の宝物」として輝いています。

